

【施策①】 J R 留萌本線沿線自治体会議における検討・協議結果を踏まえた広域交通の確保

【目的等】

地域間交通や生活圏交通からの乗り継ぎなどを考慮し、輸送量向上を目指す。

1 取組概要

- ①各交通モードの利用者数の増加など、利用促進に向けた取組を進める
- ②各交通モードの維持・確保に向け、協議の実施や効率化を図りながら関係自治体が一体的に検討
- ③ J R 留萌本線沿線自治体会議において、協議・検討を実施
- ④部分存続の協議・検討結果を踏まえた代替交通への移行について検討

2 令和 4 年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- J R 留萌本線沿線自治体会議（以下「沿線自治体会議」という）において、J R 北海道と沿線自治体が石狩沼田－留萌間は令和 5 年 3 月末まで運行し廃止、深川－石狩沼田間は令和 8 年 3 月末まで運行し廃止を合意したことから、代替交通への移行に向けて、関係者間での協議を進める

北海道

- 計画に位置付ける各路線の持続的な運行に向けた方策を検討する
【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

北空知 4 町

- 計画に位置付ける各路線の持続的な運行に向けた方策を検討する
【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

バス事業者

- 乗車人員など利用動向に係るデータの提供、関係者からの運行に係る要望についての実現性の検証、費用負担のシミュレート等、交通モード・事業者間におけるダイヤ・乗換等の調整可否の協議
【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

J R 北海道

- J R 留萌本線の一部廃線に伴う代替交通の確保等に係る支援措置
- 代替交通への移行に向けて、関係者間による協議に必要な情報や資料等の提供
【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

【施策②】 他公共交通機関と連携した J R 函館本線の利用促進

【目的等】

他公共交通からのシームレスな接続による輸送量向上を目指す

1 取組概要

- ①旭川・深川方面や滝川・札幌方面を結ぶ広域交通としての位置付けを確保する
- ②利用者数の増加に向け、他公共交通機関と連携し、利用促進に向けた取組を進める
- ③地域間交通及び生活圏交通の見直しを行い、接続状況の改善などによる輸送量向上を目指す

2 令和 4 年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- 他公共交通機関と連携し、利用促進に向けた取組を進める

北海道

- 石狩沼田一留萌間廃止に伴う代替交通との接続を含めた利便性向上の検討
【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】
- バス乗換案内時刻表の作成・振興局HPを活用した情報発信【3月～】
- 「Hokkaido Love! 6日間周遊バス」の発売による利用促進【4～7月、9月～10月】

北空知 4 町

- 市町村内の公共交通マップを作成し、HPや町広報誌で情報発信【4月～3月】
- 観光客取込を目的として、カーリングストーンと牛をモチーフにした駅名案内板を設置
【5月：妹背牛町】
- 高齢者等交通費助成で高齢者の暮らしを支援（JR片道分の交通費を助成）【4月～3月：妹背牛町】
- 路線バスを利用する65歳以上の町民に、秩父別町-深川市間の運賃を一律200円とする利用券を販売
【4月～3月：秩父別町】

バス事業者

- ダイヤ改正時に合わせて他公共交通との接続状況を確認し、必要に応じてダイヤを改善【4月、12月】
- 乗車人員など利用動向に係るデータの提供、関係者からの運行に係る要望についての実現性の検証、費用負担のシミュレート等、交通モード・事業者間におけるダイヤ・乗換等の調整可否の協議
【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

JR 北海道

- 「Hokkaido Love! 6日間周遊バス」の発売による利用促進（再掲）【4～7月、9月～10月】
- 乗継利便性の向上を目的としたバス事業者への情報提供
【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

【施策③】 他公共交通機関と連携した高速るもい号の利用促進

【目的等】

高規格道路を活用した広域交通の輸送量向上を目指す

1 取組概要

- ①広域交通としての位置付けの確保
- ②利用者数の増加に向け、他公共交通機関と連携し、利用促進に向けた取組を進める
- ③地域間交通及び生活圏交通の見直しを行い、接続状況の改善などによる輸送量向上を目指す
- ④地域間交通及び生活圏交通からの円滑な乗継に向け、各町内における乗換拠点の検討を行う

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- 他公共交通機関と連携し、利用促進に向けた取組を進める

北海道

- 振興局HPを活用した情報発信【3月～】

北空知4町

- 町HPや広報誌を活用した「高速るもい号」の情報発信【4月～3月】
- 町民を対象とし、自宅から高速るもい号秩父別IC入口バス停までのタクシー利用料全額を助成【4月～3月：秩父別町】

バス事業者

- 乗車人員など利用動向に係るデータの提供、関係者からの運行に係る要望についての実現性の検証、交通モード・事業者間におけるダイヤ・乗換等の調整可否の協議【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

【施策④】 留萌旭川線の運行サービス水準の向上

【目的等】

現状維持を図るとともに高規格道路を活用した広域交通の維持を目指す

1 取組概要

- ① 広域交通として位置付け、地域間幹線系統確保維持費補助金を活用し、路線維持を図る
- ② 利用者数の増加に向け、他公共交通機関と連携し、利用促進に向けた取組を進める
- ③ 地域間交通及び生活圏交通の見直しを行い、接続状況の改善などによる輸送量向上を目指す
- ④ J R留萌本線の検討状況を踏まえ、旭川市までの広域交通として再整備を行う
- ⑤ 現行の留萌旭川線と同程度のサービス水準の維持を基本としたサービス水準の設定について検討を進める
- ⑥ また、高規格道路を活用し、速達性を持たせた広域交通として、利用が多い時間帯など利用実態に即した一部の便のサービス水準の向上を検討する

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- 沿線自治体会議における議論を踏まえながら、代替交通としての位置づけを整理する。

北海道

- J R留萌本線廃止に伴う代替交通としての位置付けを踏まえ、今後の持続的な運行に向けた支援等について関係自治体、交通事業者、運輸支局等による検討・協議を実施

【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

- 留萌市が実施予定の留萌旭川便に関する検討状況を関係者に情報提供する

北空知4町

- J R留萌本線廃止に伴う代替交通としての位置付けを踏まえ、今後の持続的な運行に向けた支援等について、関係自治体、交通事業者、運輸支局等による検討・協議を実施

【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

- 留萌旭川線への乗り継ぎ利便性に配慮した碧水～石狩沼田間のあり方について協議を実施

【8月～：沼田町】

- 留萌旭川線への乗り継ぎ利便性に配慮した碧水～石狩沼田間のあり方について協議を実施

【10月以降：北竜町】

バス事業者

- 沿線自治体会議における協議状況を踏まえ、JRの代替交通手段としての機能も考慮し、速達性に考慮した便や利便性を損なわない便数設定など、関係者との検討・協議を実施

【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

JR北海道

- 乗継利便性の向上を目的としたバス事業者への情報提供

【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

【施策⑤】 利用実態や移動ニーズに即した路線の維持及び最適化**【目的等】**

利用実態や住民の移動ニーズを踏まえ、利便性の向上や効率化などの路線最適化による持続可能な地域間交通を目指す

1 取組概要

- ①地域間交通に係る利用実態を踏まえた路線のあり方の検討
- ②現に補助要件を満たしている地域間交通についての国庫補助を活用した現状維持
- ③利用者減により現に補助要件を満たすことが困難な地域間交通についての利用実態を踏まえた最適化
- ④最適化を実施の場合、最適化前を基本としたサービス水準の維持に向けた検討
- ⑤利用者増に向けた、他の交通モードと連携した利用促進に向けた取組の実施
- ⑥地域間・生活圏交通の見直しの実施、接続状況の改善などによる輸送量の向上に向けた取組

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）**協議会としての取組**

- JR留萌本線の廃線に伴う交通体系の変化によって、住民利便を損なうことのないサービス水準の維持を念頭においたバス路線の検討を進めるとともに、住民の利用しやすさに配慮した周知等を実施

北海道

- 各路線についての維持・確保の方針に係る議論の場の設定や協議・検討を行う【10月～3月】

沼田線：沿線自治体における議論を踏まえ、検討について助言に努める

留萌旭川線：JR留萌線沿線自治体会議における議論を踏まえ、路線の維持・確保方針を検討する
予定

北竜線：沿線自治体における議論を踏まえ、検討について助言に努める

深滝線：沿線自治体実務者における議論を踏まえ、路線の維持・確保方針を確認

- 石狩沼田－留萌間廃止に伴う代替交通との接続を含めた利便性向上の検討

【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

北空知4町

- 路線の利用実態に即した交通体系の構築に向け、議論の場の設定や協議・検討を行う【10月～3月】

沼田線：沿線自治体において、路線のあり方を検討

留萌旭川線：JR留萌線沿線自治体会議における議論を踏まえ、路線の維持・確保方針を検討する
予定

北竜線：沿線自治体において、路線のあり方を検討

深滝線：沿線自治体において、国庫補助を活用した現状維持を前提に、路線の維持・確保方針を確認

- 事業者への運行費に係る財政支援の実施【4～3月】

- JR留萌本線の廃線に伴う代替交通の検討状況などについて、ホームページや広報誌等を活用した住民への周知【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

- 円滑な乗継の実現に向けた町営バス停留所の整備【4月：北竜町】

バス事業者

- 乗車人員など利用動向に係るデータの提供、関係者からの運行に係る要望についての実現性の検証、費用負担のシミュレート等。交通モード・事業者間におけるダイヤ・乗換等の調整可否の協議

【沿線自治体会議における議論を踏まえ、関係者による必要な調整を行う】

【施策⑥】公共交通間の円滑な乗継に向けた地域内の交通拠点の形成

【目的等】

広域交通と接続する地域内の交通拠点の形成を行い、円滑な乗継環境及び効率的な公共交通網の構築を目指す

1 取組概要

- ①広域交通と地域間交通や生活圏交通が接続する地域内の交通拠点を各町で形成する
- ②地域内拠点の形成にあたっては、既存で活用されている拠点のほか、各公共交通機関が接続している施設や町内交流拠点等を活用する
- ③地域との協議及びニーズを踏まえ、新たな拠点形成についても検討する

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

共通の方向（協議会としての取組）

- 広域交通と接続する地域内の交通拠点の形成を行い、円滑な乗継環境及び効率的な公共交通網の構築を目指す

北海道

- 各主体の考え方を整理・集約し、検討の場を設けるなどの総合調整【4月～3月】

北空知4町

- 町営バス停留所の整備【4月：北竜町】

バス事業者

- 交通拠点の形成について、国及び道ならびに沿線市町村等の要請に対する検討【4月～3月】

JR北海道

- 利便性などに配慮した転換後の交通体系の検討【4～3月】

北海道開発局

- 協議状況を踏まえ、高速PAの活用などを含めた検討に対する助言【4～3月】

北海道警察

- 交通網構築に伴う許可申請等への対応【4月～3月】

【施策⑦】 本地域に住み続けられる生活圏交通の検討

【目標等】

広域交通との接続も見据えた地域内の生活の足を検討し、生活圏交通の維持・確保を目指す

1 取組概要

- ①町内での買い物や通院等での移動に加え、町内の公共交通空白地域の改善、広域交通との接続を目的とした交通の導入などを検討する
- ②交通の導入にあたっては、地域の実情や広域交通との接続状況などを踏まえる必要があるため、本計画との連動を図りながら検討する
- ③導入が想定される交通の形態として、町営バス（コミュニティバス）の運行や乗合タクシーの運行、スクールバスの住民混乗の実施、広域交通と接続する地域内拠点までの住民向けの移動支援事業の実施など、地域の実情にあったものを選択する
- ④持続可能な生活圏交通の実現に向け、住民ニーズだけでなく、運行を担うことが想定される地域の交通事業者（タクシー会社等）の事業継続性も踏まえた検討を行う
- ⑤北竜町における生活圏交通については、地域内フィーダー系統として、北竜町地域公共交通計画に詳細等の位置付けを定める
- ⑥また、他町において、新たな生活圏交通の導入・検討する際にも、同様の検討を行い、各町で持続可能な生活圏交通の確保を図る

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- 各町独自の取組をさらに推進するとともに、広域交通・地域間交通との接続性の確保も併せて取組を実施・検討する

北海道

- 各主体の考え方を整理・集約し、広域交通・地域間交通との接続性の確保について助言を行う。
【4～3月】

北空知4町

- 高齢者等交通費助成で高齢者の暮らしを支援【タクシー、バス】申請者に100円つづりの券を交付
【4月～3月：妹背牛町】
- 60歳以上の町民に、タクシー利用者に対する運賃を助成【4月～3月：秩父別町】
- 路線バスを利用する65歳以上の町民に、秩父別町-深川市間の運賃を一律200円とする利用券を販売
【4月～3月：秩父別町】
- 町民に自宅から高速るもい号秩父別IC入口バス停までのタクシー利用料全額を助成
【4月～3月：秩父別町】
- 遠方から小中学校に通学する児童生徒向けに運行するスクールバスの住民混乗の実施
【4月～3月：秩父別町、北竜町】

町内交通事業者

- 実際の運行における乗降状況など利用実態の把握・提供【4～3月】

【施策⑧】 地域内外に向けた情報提供体制の強化

【目的等】

公共交通と移動目的がリンクした分かりやすい情報提供を目指す

1 取組概要

- ① 本地域に関連する公共交通網が大きく変化することが予想されるため、わかりやすい情報提供を行う
- ② 本地域に居住する住民だけでなく、来訪者も活用できる情報の発信を目的として、広報誌や各町ホームページなどの情報媒体を活用する
- ③ 情報提供にあたっては、各公共交通機関の時刻表や移動ニーズが高い施設までの移動例など、公共交通を使った移動を支援する内容を検討する

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- 分かりやすく利用しやすい公共交通環境の整備に向け、情報提供体制の強化を行う

北海道

- バス乗換案内時刻表の作成・振興局HP等を活用した情報発信【3月～】
- 観光イベント事業等と連携した管内市町村のプロモーション活動の実施【随時】
- 他地域の優良事例などを収集し共有【3月】

北空知4町

- 広報誌、HPを活用した情報発信【4月～3月】

バス事業者

- 北竜町アクセス交通の運行開始に伴い、路線バスの配布用時刻表に深滝線（雨竜経由）との接続時間や乗場の情報を掲載する等、利用者への情報周知【4～3月】
- 公式サイト上で全停留所時刻表、路線図、運賃表等の公開するとともに、隣接する公共交通機関のリンクも掲載する等、情報配信を支援【4月～3月】

町内交通事業者

- 利用方法などに関する広告【4月～3月】

【施策⑨】公共交通の利用を促進する運賃助成の検討

【目的等】

運賃助成による公共交通の利用者増加を目指す

1 取組概要

- ①地域住民や各町を訪れる方が自動車に依存せずに、移動できる環境づくりに向けた運賃助成事業を検討する
- ②地域住民向けに、高齢者だけでなく通学世代や子育て世代も活用できるような対象者の設定を検討する
- ③地域住民に加え来訪者向けに、各町や町内施設と連携し、地域内の活性化及び公共交通の活性化が図られる割引制度などについて検討する

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- 公共交通の利用を促進する運賃助成を検討する

北海道

- 他地域の優良事例などを収集し共有【3月】

北空知4町

- 妊婦検診通院支援及び高校通学費の助成【4月～3月：妹背牛町、北竜町】（妹背牛町、北竜町）
- 60歳以上の町民を対象とし、タクシー利用者に対する運賃を助成【4月～3月：秩父別町】
- 路線バスを利用する65歳以上の町民に、秩父別町-深川市間の運賃を一律200円とする利用券を販売【4月～3月：秩父別町】
- 町民を対象とし、自宅から高速るもい号秩父別IC入口バス停までのタクシー利用料全額を助成【4月～3月：秩父別町】

商工会

- 商店街活性化などに資する取組などについて助言【4月～3月】

【施策⑩】 先進技術を取り入れた移動の質の向上

【施策⑩】

ICT モビリティサービスの提供による移動の質の向上を目指す

1 取組概要

- ①オンラインでのデマンドなどの予約や事前決済など乗車前の負担軽減策を検討する
- ②QRコード決済などの非接触型サービスを活用した支払時の負担軽減策を検討する
- ③本地域と地方都市間の移動や施設訪問時における各種サービスのシームレス化を検討する
- ④高規格道路を運行するバスの自動運転化による持続可能なサービスを検討する

2 令和4年度の具体的な取組内容（※以下、【 】内は実施（予定）時期）

協議会としての取組

- ICT モビリティサービスの提供による移動の質の向上について検討を行う

北海道

- 他地域の優良事例などを収集し共有【3月】

北空知4町

- 北空知広域圏振興協議会にて、北空知圏域の公共交通とMaaSについて協議・検討【4月～3月】

バス事業者

- 先進技術の活用方法について、国及び道ならびに沿線市町村等の要請に対する検討【4月～3月】

JR北海道

- ICカードKitacaエリア拡大の検討・準備（4月～3月）

北海道開発局

- 他県事例等含めた先進技術を活用した実証事業に係る情報提供【4月～3月】